

(別紙様式4)

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
日本リハビリテーション専門学校	平成9年12月25日	陶山 哲夫	〒171-0033東京都豊島区高田3-6-18 (電話) 03-5954-6511			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 敬心学園	昭和61年4月11日	理事長 小林 光俊	〒169-0075東京都新宿区高田馬場1-32-15 (電話) 03-3200-9071			
目 的	理学療法士として即戦力を身につけるための専門教育を実施する。心豊かな人間性を持った医療者育成を目指し、知識や技術のみでなく総合的臨床能力を高めることに重点を置く。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	専門士の 付与	高度専門士の付与
医療	医療技術 専門課程	理学療法学科 (夜間部)	4年(夜)	123単位	—	平成21年文部科学 省告示第25号
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	80単位	13単位	30単位	30単位	30単位	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人	149人	8人	18人	26人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について S、A、B、C、Dの5段階評価。筆記試験、実技試験、平素の学習状況及び欠席状況を総合して評価する。			
長期休み	■学年始め：4月6日 ■夏 季：8月10日～9月11日 ■冬 季：12月25日～1月4日 ■春 季：3月9日～4月3日 ■学 年 末：3月6日	卒業・進級条件	卒業要件：本校に4年以上在籍し、全科目を履修し認定を受けること。 履修方法：履修単位制。授業科目を履修して試験に合格すれば科目認定を与えられる。			
生徒指導	■クラス担任制(有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 出席状況を常に把握し、一定以上の欠席日数の学生に対し担任が指導を行っている。	課外活動	■課外活動の種類 学業に支障がない範囲でボランティア活動に参加することを方針としている。 ■サークル活動(有・無)			
主な就職先	■主な就職先、業界 病院、診療所、介護老人保健施設他 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 72.0% ■その他(任意) (平成27年度卒業者に関する平成28年3月時点の情報)	主な資格・検定	・理学療法士国家試験受験資格 ・上級救命講習			

中途退学の現状	<p>■中途退学者 13名 ■中退率 8.1%</p> <p>平成27年4月1日在学者160名（平成27年4月入学者を含む）  平成28年3月31日在学者147名（平成28年3卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由  進路変更（不適性）、成績不振、健康上の理由等</p> <p>■中退防止のための取組  クラス担任制を設け、学生全員と個別面談を行い、状況の把握に努めている。一定の成績に満たない学生に対しては、自己分析の上、学習方法の改善等の特別指導を行っている。</p>
ホームページ	URL: <a href="https://www.nitiriha.com/">https://www.nitiriha.com/</a>

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

生徒の就職先となる医療機関（病院・医院等）及び介護老人施設や福祉施設（身体障害者施設・介護老人福祉施設等）における理学療法士等の人材の専門性に関する動向を踏まえながら、最新の実務に関する知識、技術、技能などを十分把握・分析したうえで、当該職業実践専門課程の理学療法学科夜間部（4年制）の教育を実施するにふさわしい授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を行う。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年3月6日現在

名 前	所 属
陶山 哲夫	日本リハビリテーション専門学校 校長
高田 治実	帝京科学大学 東京理学療法学科教授
武市 裕貴	介護老人保健施設小金井あみず苑 副施設長
松岡 良幸	介護老人保健施設ふれあいの里 リハビリテーション課長
古川 広明	新百合ヶ丘総合病院 リハビリテーション科科長代行
山下 高介	陽和病院 社会療法部作業療法室作業療法士
栗原 実里	総合東京病院 診療技術部リハビリテーション科作業療法士
二瓶 隆一	日本リハビリテーション専門学校 名誉校長
工藤 征四郎	日本リハビリテーション専門学校 副校長・総括事務長
畠山 敦	日本リハビリテーション専門学校 教務部長兼理学療法学科総括学科長
近野 智子	日本リハビリテーション専門学校 副教務部長兼作業療法学科昼間部学科長
篠田 良平	日本リハビリテーション専門学校 理学療法学科昼間部学科長
鈴木 雅男	日本リハビリテーション専門学校 理学療法学科夜間部学科長
深瀬 勝久	日本リハビリテーション専門学校 作業療法学科夜間部学科長

(開催日時)

第1回 平成28年10月21日 15:00～16:00

第2回 平成29年 2月17日 15:00～16:00

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

本校では臨床的教育重視の観点から企業との連携による実習・演習等に関して、最新の実践的かつ専門的職業教育を行うことを基本方針として実践している。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
解剖学Ⅲ	解剖見学を通して、1年次に学んだ人体構造の理解を深め、理学療法評価や治療への認識を高める。	日本医科大学、日本歯科大学 平成27年度2施設、平成28年度2施設
臨床見学実習	指導者のもとで見学を通じて、病院、施設内での理学療法士の役割と責任を包括的に把握し、理学療法の対象となる患者、障がい者の持つ諸問題を理解する。 また、将来理学療法士を目指す学生として医療人としてのふさわしい態度を培う。これまで履修した基礎知識が、臨床でどのような意味を持つか認識する。特に、すでに学習した検査、測定技術（MMT、ROM・T、感覚検査等）は、機会があれば指導者のもとで実践する。	いずみ記念病院、河井病院、厚生荘病院、多摩丘陵病院、東大和病院 他 平成27年度37施設、平成28年度41施設

臨床実習Ⅰ	基本的な疾患の理学療法を学んだところで、比較的症状の明瞭な患者について、指導者の下で、情報収集、検査、測定を実施し、それをもとに障害構造の理解を深め、問題点の抽出、目標設定、治療プログラムの立案ができるようにする。また、医療人として相応しい態度、行動がとれるようにする。	きたむら整形外科、厚生荘病院、宇部第一病院、杏林大学医学部付属病院、上尾中央総合病院他 平成27年度39施設、平成28年度32施設
臨床実習Ⅱ	指導者の下で、複数例の患者を担当し、その評価、実際の治療、治療経過の記録、リスク管理など理学療法臨床の実際を体験する。最終実習時には、上記の内容がほぼ独立して行えるようにする。また、医療人として相応しい態度、行動がとれるようにする。	大宮共立病院、厚生荘病院、宇部第一病院、総和中央病院、介護老人保健施設葵の園・富士見 平成27年度77施設、平成28年度69施設

### 3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

日本リハビリテーション専門学校教職員研修規程に基づき、専修学校の専門課程の職業実践専門課程の認定の趣旨に鑑み、時代の流れに沿った最新の医療・福祉・保健等に関する社会のニーズを反映した教育活動を実践していくため、これまで以上に、研究レベル及び実務レベルの医療や福祉又は保健等の学会や研修会に教職員が積極的に参加して、資質の充実向上を図っていくことを教職員研修等基本方針とする。

### 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成29年3月6日現在

名 前	所 属
高田 治実	帝京科学大学 東京理学療法学科教授
武市 裕貴	介護老人保健施設小金井あんず苑 副施設長
松岡 良幸	介護老人保健施設ふれあいの里 リハビリテーション課長
古川 広明	新百合ヶ丘総合病院 リハビリテーション科科长代行
山下 高介	陽和病院 社会療法部作業療法室作業療法士
栗原 実里	総合東京病院 診療技術部リハビリテーション科作業療法士

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <https://www.nitriha.com/evaluation>

### 5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <https://www.nitriha.com/evaluation>

授業科目等の概要

(医療技術専門課程理学療法学科夜間部) 平成28年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			医学倫理	リハビリテーションを学び、現場に臨もうとしている学生が、医療の場で病者に出会い、病者の苦しみと希望に寄り添うために必要な、人間としての態度・倫理を、哲学や倫理学の所見に傾聴しながら考える。	3 後	30	2	○		
○			心理学	理学療法士として、患者さんや利用者さんを十分に理解し、支援していくために、人間理解の方法として「心」を知る知識と技術を紹介し、実践していく。	1 後	15	1	○		
○			教育学	最近の教育事情を把握するとともに、教育学の基礎的知識を学ぶ。また、授業を通して、自分自身の学びを再点検すること、人間・社会等を理解するための視野を広げることをねらいとする。	1 後	15	1	○		
○			人間関係学	リハビリテーションを学ぶ学生が医療の現場で必要とされる信頼関係や他者との関わり方について、リハビリテーションの歴史を踏まえながら考える。	1 前	30	2	○		
○			情報科学1	理学療法に必要な情報処理技術を身につける。	1 前	30	2	○		
○			情報科学2	臨床現場で使う書類などの基礎を学ぶ。	3 後	15	1	○		
○			自然科学	専門科目を理解するために必要な物理学の知識を習得する。現実の場面で物理学的な考え方が適用できるようになること。	2 前	30	2	○		
○			保健体育	運動に伴う生体の適応範囲を学び、健康作りの基礎を習得する。	1 後	15	1	○		△
○			体育実技	スポーツ大会や競技活動を通して身体を動かすことを実践し、健康管理の方法を習得する。	2 前	30	1			○
○			英語	臨床実習と資格取得後に、必要な医療英単語・英語表現の習得を目指す。	3 後	15	1	○		
○			解剖学 I	人体構造の理解。骨格および関節を理解し、用語を修得する。	1 前	30	1	○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			解剖学Ⅱ	人体構造の理解。骨格および関節を理解し、用語を修得する。	1前	30	1	○		
○			解剖学Ⅲ	人体構造の理解。脈管系および内臓学を理解し、用語を習得する。	1後	30	1	○		
○			解剖学Ⅳ	解剖見学実習を通して今まで学んだ身体構造の理解を深め、他の教科の学習へつなげる。	3後	15	1	△		○
○			機能解剖学Ⅰ	理学療法を業務とするうえで、骨格筋を理解する必然性はきわめて高い。平面的に捉えがちな解剖書にある知識を、骨指標を軸に三次元的に捉え、実際に確認することを目標とする。	1前	30	1	△		○
○			機能解剖学Ⅱ	理学療法を業務とするうえで、骨格筋を理解する必然性はきわめて高い。平面的に捉えがちな解剖書にある知識を、骨指標を軸に三次元的に捉え、実際に確認することを目標とする。	1後	30	1	△		○
○			生理学Ⅰ	人体の生理機能についての基本的な知識の習得を目的とする。	1後	30	1	○		
○			生理学Ⅱ	人体の生理機能についての基本的な知識の習得を目的とする。	1後	30	1	○		
○			生理学Ⅲ	人体の生理機能についての基本的な知識の習得を目的とする。	1後	30	1	○		
○			生理学実習	人体の生理機能について実習を通して理解を深める。	1後	30	1			○
○			運動学Ⅰ	力学の基礎や人体における関節の機能、筋の活動を学習する。	1前	30	1	○		
○			運動学Ⅱ	人体における関節の機能や筋の活動を学習する。	1前	30	1	○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			運動学実習	ヒトの特徴を脳機能（情動含む）・身体機能面から分析できる力を養う。なかでも基本的動作能力について分析できる力を養う。ICFの分類に基づき動作を考察できる思考力を養う。	2後	45	1	○		△
○			人間発達学	「身体」「認知」「社会性」の相互作用として「人」の発達を学ぶ。	1後	30	1	○		△
○			病理学概論	国家試験に出題される範囲内での病理学の基本的な知識を理解する。	2後	30	2	○		
○			臨床心理学	臨床心理学の基礎理論と心理臨床の技法の学習と実習を行う。	2前	30	2	○		△
○			内科学・老年学	理学療法の対象となる内科疾患や高齢者特有の疾患について学習する。	2前	30	2	○		
○			整形外科学	理学療法士業務に必要な整形外科の基礎知識について講義する。	2前	30	2	○		
○			神経内科学	リハビリテーション医療に必要な神経内科領域の知識、診察技術を習得させる。	2後	30	2	○		
○			精神医学	精神医学についての理解を深め、精神科が扱う各疾患の病態を学習する。	2前	30	2	○		
○			小児科学	小児の正常な発育、発達を知る。小児に特有な疾患を理解する。	3後	15	1	○		
○			社会福祉概論	児童、老人、障害者の分野における福祉制度の実施体制、福祉サービスの内容等について学習する。	1後	15	1	○		
○			リハビリテーション医学概論	リハビリテーション医学基礎知識とリハビリテーション発展の歴史・現状及び課題並びにリハビリテーション主要四分野の概要等について学習を深める。	1前	30	2	○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			理学療法概論Ⅰ	理学療法の存在する意義と責任について考察する。また、病院、施設など各々の目的とそこでの役割と業務について理解する。	1前	30	2	○		
○			病態運動学	疾患特有の歩行形態を理解し、運動学、解剖学、神経学の知識を統合する。	3後	15	1	○		△
○			理学療法研究法	理学療法の研究の流れを理解し、簡単な研究計画を作成する。	4後	15	1	○		
○			専門基礎医学演習	国家試験に向け解剖学や生理学、内科学や整形外科など基礎医学系の学問を復習する。	4後	60	4	○		
○			総合演習Ⅰ-A	1年生における専門基礎分野の授業科目で学ぶ医学的・理学的な基礎知識に基づいて、担当教員の指導のもとに種々の症例ケースを通して上級生（2年生または3年生）の参加を得ながら医学的・理学療法的な基礎知識の習熟教育訓練を行う。	1前	15	1		○	
○			総合演習Ⅰ-B	1年生における専門基礎分野の授業科目で学ぶ医学的・理学的な基礎知識に基づいて、担当教員の指導のもとに種々の症例ケースを通して上級生（2年生または3年生）の参加を得ながら医学的・理学療法的な基礎知識の習熟教育訓練を行う。	1後	15	1		○	
○			検査測定法概論	検査の意義・方法・考え方について理解する。バイタルチェックや肢長周径の検査の方法等を習得する。	1後	30	1	○		△
○			検査測定法Ⅰ	筋力の測定方法を身に付け、関節運動と筋の作用を理解する。	1後	30	1	○		△
○			検査測定法Ⅱ	関節可動域の測定方法を身につける。基本軸、移動軸、参考可動域を理解する。	1後	30	1	○		△
○			検査測定法Ⅲ	整形外科分野における検査方法を学び、説明および実施できるようにする。	2前	30	1	○		△
○			検査測定法Ⅳ	感覚・反射などの神経学的検査法を習得し検査結果を考察できるようになる。	2前	30	1	○		△



分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			検査測定法V	中枢神経系の損傷による運動障害の検査方法や筋緊張などの検査法を学習する。	2後	30	1	○		△
○			検査測定法VI	高次脳機能の概念を学習しその検査方法を習得することで、高次脳機能障害の概念と基礎知識を身につける。	2後	30	1	○		△
○			検査測定法演習I	1、2年次で学んだ理学療法検査を再学習し、正確性を高め、臨床での応用方法を考える。	2前	30	1		○	
○			検査測定法演習II	1、2年次で学んだ理学療法検査を再学習し、正確性を高め、臨床での応用方法を考える。	2後	30	1		○	
○			検査測定法演習III	検査測定法実習に対する準備と振り返りをおこない、学内学習、臨床実習に向けての課題を見つける。	2後	15	1		○	
○			総合演習II-A	2年生における専門基礎分野の授業科目で学ぶ医学的・理学的な基礎知識に基づいて、担当教員の指導のもとに種々の症例ケースを通して上級生の参加を得ながら医学的・理学療法的な基礎知識の習熟教育訓練を行う。	2前	15	1		○	
○			総合演習II-B	2年生における専門基礎分野の授業科目で学ぶ医学的・理学的な基礎知識に基づいて、担当教員の指導のもとに種々の症例ケースを通して上級生の参加を得ながら医学的・理学療法的な基礎知識の習熟教育訓練を行う。	2後	15	1		○	
○			運動療法学I	運動療法の項目を挙げ、その目的を理解する。各運動療法の具体的内容を理解し、説明できるようにする。各運動療法の長所と短所を挙げ、説明できるようにする。	2前	30	1	○		△
○			運動療法学II	運動療法の項目を挙げ、その目的を理解する。各運動療法の具体的内容を理解し、説明できるようにする。各運動療法の長所と短所を挙げ、説明できるようにする。	2後	30	1	○		△
○			物理療法学	物理エネルギーの特性と、それに呼応した人体の反応から物理療法の理論と技術を学ぶ。	2後	30	1	○		
○			義肢装具学I	義肢の概念などの基礎知識と構造と疾患の流れを理解する。	3後	30	1	○		△

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			義肢装具学Ⅱ	基礎疾患を理解した上で、障害と装具の基礎知識を学習する。治療場面の多様化に対応できるように応用する能力をつける。	4前	30	1	○		△
○			日常生活活動学Ⅰ	日常生活活動（ADL）の基礎を学び、評価の仕方や車椅子の介助技術を身につける。	2前	30	1	○		△
○			日常生活活動学Ⅱ	各疾患に応じたADL指導、介助法を身につける。	3前	30	1	○		△
○			疾患別理学療法Ⅰ-A	整形外科疾患に対応した評価・治療項目を理解し、身につける。	3前	30	1	○		△
○			疾患別理学療法Ⅰ-B	整形疾患の理学療法評価・運動療法を理解し、実施できる。	3前	30	1	○		△
○			疾患別理学療法Ⅱ-A	脳血管障害における障害の特徴を理解し、評価・治療の基礎を学習する。	3前	30	1	○		△
○			疾患別理学療法Ⅱ-B	高齢者の身体的・心理的特徴を捉えリスク管理を含めて学習する。	3後	30	1	○		△
○			疾患別理学療法Ⅲ-A	各難病疾患の理学療法評価・運動療法の実施ができる。	3前	30	1	○		△
○			疾患別理学療法Ⅲ-B	各難病疾患の理学療法評価・運動療法の実施ができる。	3後	30	1	○		△
○			疾患別理学療法Ⅳ-A	呼吸器疾患の病態を把握し、評価、運動療法、日常生活動作まで含めて学習する。	3前	30	1	○		△
○			疾患別理学療法Ⅳ-B	循環代謝系疾患の病態を把握し、生活習慣病としての予防的理学療法、心疾患や糖尿病の理学療法について学習する。	3後	30	1	○		△
○			疾患別理学療法Ⅴ-A	定型児の発達を踏まえ、肢体不自由を生じる小児期の代表疾患について、その原因、症状、予後、障害に適切な評価方法と、その理学療法を説明でき、個別性のある対象児の発達段階、ライフステージに合わせた理学療法を検討し実施することができる。	3後	30	1	○		△

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			疾患別理学療法Ⅴ-B	脊髄損傷の病態や障害を理解し、理学療法評価・理学療法を立案できる。	3 後	30	1	○		△
○			理学療法技術論Ⅰ	関節モビライゼーションの治療概念を理解し、手技を実施できる。	4 前	30	1	○		△
○			理学療法技術論Ⅱ	結合組織の理解を深め、軟部組織・筋膜・神経に対する評価・治療の基礎を把握する。	4 前	30	1	○		△
○			理学療法技術論Ⅲ	問診、徒手療法を通じて、人体の構造および症状を理解する。	4 前	30	1	○		△
○			理学療法技術論Ⅳ	臨床セミナーの一環として、臨床的に使われるPNFのアプローチについて実技を中心に学習する。	2 後	30	1	○		△
○			理学療法技術論Ⅴ	神経発達学的治療を通して正常運動を理解する。	4 前	30	1	○		△
○			臨床技術論	臨床現場におけるPT技術を理論とともに学ぶ。	2 後	15	1	○		△
○			総合演習Ⅲ-A	評価実習に向けて模擬患者実習を行い臨床能力を評価・教育する。また1・2年生の総合演習を指導し、方向付けを行うことで自身の知識や考え方の整理を行う。	3 前	30	1		○	
○			総合演習Ⅲ-B	評価実習後の知識を活用し、1・2年生のケーススタディを指導し臨床を後輩に伝える	3 後	30	1		○	
○			総合演習Ⅳ-A	4年間の学習の総まとめをし、臨床現場で応用できるよう多方面から学習する。	4 後	30	1		○	
○			総合演習Ⅳ-B	4年間の学習の総まとめをし、臨床現場で応用できるよう多方面から学習する。	4 後	30	1		○	
○			総合演習Ⅳ-C	4年間の学習の総まとめをし、臨床現場で応用できるよう多方面から学習する。	4 後	30	1		○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			総合演習Ⅳ-D	4年間の学習の総まとめをし、臨床現場で応用できるよう多方面から学習する。	4後	30	1		○	
○			地域理学療法学	地域・在宅を基盤に生活している障害者・高齢者の現状を理解し、理学療法士として地域にかかわる役割を理解する。	3後	30	2	○		
○			生活環境学	生活環境の基礎にある日常生活活動を福祉用具及び住宅の視点から再考し、新しい分野である生活環境学の理解を深めていく。	3前	30	2	○		
○			臨床見学実習Ⅰ	病院、施設内で勤務する理学療法士の役割や具体的な仕事を理解し、医療福祉分野で働く心構えや今後の学習を明確にする。	1後	45	1			○
○			臨床見学実習Ⅱ	病院、施設内での理学療法士の役割と責任を包括的に把握し、今後の専門知識修得に向けて準備する。	2前	45	1			○
○			臨床検査実習	2年次まで学んだ理学療法検査を臨床指導者のもと、実践する。	2後	45	1			○
○			臨床実習Ⅰ	臨床実習指導者のもと、次のことを学ぶ。 ①将来理学療法士を目指す学生として、医療人としてふさわしい態度を培う。②学校で習得した理論および技術に加え、臨床場面での検査・測定を実践する。③評価で得られた情報を元に障害構造の理解を深め、問題点の把握、目標の設定、治療プログラムの立案等ができるようになる。	3後	360	8			○
○			臨床実習Ⅱ-A	指導者のもと、複数例の患者を担当し、その評価、実際の治療、治療経過の記録、リスク管理など理学療法臨床の実際を体験する。最終実習時には、上記の内容がほぼ独立して行えるようにする。また、医療人として相応しい態度、行動がとれるようにする。	4前	360	8			○
○			臨床実習Ⅱ-B	指導者のもと、複数例の患者を担当し、その評価、実際の治療、治療経過の記録、リスク管理など理学療法臨床の実際を体験する。最終実習時には、上記の内容がほぼ独立して行えるようにする。また、医療人として相応しい態度、行動がとれるようにする。	4後	360	8			○
合計					88科目	3,480単位時間(126単位)				